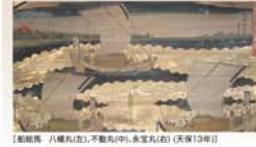


1 幕末の良港・桃崎浜の繁栄を偲ぶ

江戸時代、船問の桃崎浜は、市村の源谷浜、海老川とともに桃川三溪と呼ばれた新潟港・北部沿岸第一の良港でした。桃崎浜は造船場が繁盛し、その船は、南は瀬戸内海、北は北海道方面まで活躍しました。



① 桃崎浜文化財収蔵庫

北前船の船主や船頭は、大阪などの有名な駿馬師に自分の船を描かせ、海上安全の祈願や先達への礼を込めて、航海の守護神である神社などを奉納しました。船内にはこうした駿馬師が数多く残っており、桃崎浜にゆみ、荒井屋、中村屋、山屋、村松組などの神社から見られた船駿馬1182点に及びます。桃崎浜文化財収蔵庫に所蔵されている船駿馬85点と2隻の模型船は、国の重要文化財に指定されています。

■見学は事前予約が必要です。 ■内市生涯学習課 ☎0254-47-3409

② 黒川郷土文化伝習館

北前船の船主・船頭は、北前船交易の船頭屋間で、船内に奉納した神社などを奉納しました。船内にはこうした駿馬師が数多く残っています。桃崎浜にゆみ、荒井屋、中村屋、山屋、村松組などの神社から見された船駿馬85点と2隻の模型船は、国の重要文化財に指定されています。

■見学は事前予約が必要です。 ■内市生涯学習課 ☎0254-47-3409



③ 村松浜・金刀比羅神社

村松浜の造船場・平野家第四代日安之丞が海上安全の祈りと同時に四國から分霊したので、市指定文化財の本殿は天保6年(1835)に完成しました。社殿は舟形をついた見事な船形で飾られ(表裏左上右下)、社地の松林や環状の池とに應じ、四季を通じて美しいたずまいを見せています。

周辺の見どころ ④ 乙宝寺

736年聖武天皇の勅願による開山で、「今昔物語」「古今著聞集」にも登場している越後守の古跡です。松尾芭蕉の奥の細道の行脚に参拝したことでも知られ、境内には芭翁の句碑があります。元和6年(1620)村上城に建立の正本堂は、純和様建築で美しく國の重要文化財に指定されています。

■0254-46-2016

2 まちなかに残る宿場町・中條の面影

中条は、中世は唐庄といわれた倭国が存在し、鎌倉時代以降は中条氏が支配しましたが、上杉景勝の会津移封に従って中条氏が引出へ移った後は、領主は複数に推移し、近世は米沢街道と羽州浜街道が交わる要所の宿場町として発展しました。

江戸時代の中条は猪野若宮神社付近の本通りに宿や商店が立ち並び、元禄年間に六萬市がはじまり、近世の市場町としても賑わいました。元禄3年(1690)建立の猪野若宮神社をはじめ、江戸期や明治期に建てられたお寺、販賣、商店、土蔵などが、宿場町・中條の面影を伝えています。

◆猪野若宮神社・その周辺



〔昭和2年の猪野若宮神社大木原庭園写真〕〔新潟県立歴史博物館所蔵〕
五万手の猪野若宮神社から、石川・土蔵・町家・下屋と記している。
現在も芸堂を経ける西屋(葉子屋)、元青屋旅館などの名前が見えます。

周辺の見どころ ⑤ 太遠寺

越後市西条にある曹洞宗の寺院。東洋美術史家である曾我宣美的「曾我と源氏」は、昭和20年(1945)月の新潟空襲で家や書籍のすべてを失い、遂にこのために始めた越後市西条の丹兵衛です。曾我女子とともに源氏開闢ました。しかし、キヨ子は死なく病氣、悲しまの源氏多くの歌がうまれました。



曾我八一書跡

⑥ 興山莊歴史館・江上館跡

中世・中条氏の居館・江上館跡は、平地の水堀と土塁で囲まれた典型的な形跡館です。興山莊歴史館では、中条氏ゆかりの品々が展示されています(国史跡)。



3 新発田に花開いた城下文化

上杉景勝が豊臣秀吉の命により会津若松へ移封されると、越後国北の庄から經秀治が春日山に封じられました。このとき堀氏の力大名として、新発田には加賀國大聖寺から溝口秀忠6万石が配置され、以後、明治維新までに亘り溝口家が新発田を統治しました。

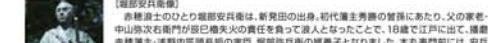
17世紀後半になり幕府が確立し財政が充実すると、文化藝術が目向かされるようになり、下屋敷の建設・庭園の造営がなされました。また、歷代住主は、自ら江戸に勤めました。

特に享保11年(1726)には6代政宗のよみがれで新発田城(現)に代表される祭り文化が花開き、竹籠の風情で、藩士はもんぢろの町の人々まで城下に茶道が普及しました。これは季節ごとの茶会や城下町新発田まつりによって、現在の新発田にも受け継がれています。

⑦ 新発田城

初代藩主・秀忠が嘉永7年(1802)に築城、3代宣直のときに完成しました。新発田城はかつて丸ノ丸、三丸からなり、堀や石垣や土居に囲まれ、新発田川の水を轍寄せた城で、11種の櫓と株の櫓が並びて豪華な景観を呈していました。中でも、天守閣の代わりを果たしていたのが三階橹(表石段下石段)、3層の櫓を配するという独特的の構造で、當時ではまだ「大變珍しい」ものです。

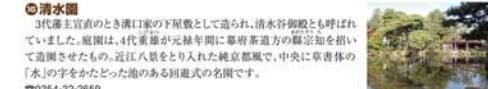
平成16年に、この三階櫓、辰巳櫓が復元されました。



⑧ 寺町通り

清河家の菩提寺・宝光寺や、戦国時代の領主新発田家の城主・新発田重政が祀る福善寺などがあります。宝光寺には10代までの藩主の墓があり、境内には蓮川家光から寄贈されたと伝えられる御定樹(380年の杉木)が残ります。

通りにある寺町通りには休憩スペースがあり、新発田伝統の和菓子と抹茶を味わうことができます。町家産業や加工品の販売もあります。



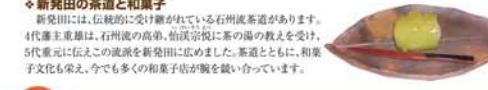
⑨ 清水園

3代元直のとき清河家の下屋敷として造られ、清水谷御殿とも呼ばれています。庭園は、代重雄が元禄年間に幕府茶道方の藤祐吉を招いて造園させたもの、近江八景を取り入れた京都風で、中央に草書体の「水」の字をたたいた池のある回遊式の名園です。

■0254-22-2659

◆ 城下町新発田まつり(8月12日、8月26日~29日)・新発田台輪

しばたの源流は、享保11年(1726)6代藩主直成が、諱諂神社祭礼にあたり「御手入式」として駒形の輪を出す上にうるおれを出したことを始まりといわれています。最終日(8月29日)、男衆が熱い心意気をもつけて駒形町に山車を引き出す「桶ヶ台輪」がはじまるとき、祭りは最高潮となります。



◆ 新発田の茶道と和菓子

新発田には、伝統的に愛好されている石川流茶道があります。4代重宗は、石州派の高弟・笛仙宗悦に茶の道の教えを受け、5代重元が伝統の新発田流に広めました。茶道とともに、和菓子文化も楽しんで多くの和菓子店が腕を競っていまいます。

周辺の見どころ ⑩ 谷口虹児記念館

「金瓶梅子の帯しめながら…」ではじまる花嫁人形の詩の作者谷口虹児は新発田町(現、新発田市)生まれ。15歳で上京、22歳のとき竹久夢二の紹介で「少女画報」に掲載を始めています。そのモ

ダンな作風が読者の狂熱的な支持を得て、一躍人気者になります。画家、イラストレーター、詩人、グラフィック・デザイナーなど、一人何役もこなす多才なアーティストでした。

■0254-23-1013

◆ 中央市

毎月3と5のつく日に猪野若宮神社周辺で開催されます。元禄年間から続いている別名「三八市」。地元の貿易や魚の卸、生活用品などが並び、町の人々はもちろん観光客にも親しまれています。

■0254-22-2510

◆ 市島酒造

「王紋」で知られる新発田の酒造。二百余年の歴史を誇る収蔵品の数々、酒造の変遷を伝える道具を展示した蔵室があります。

■0254-22-2510

◆ お土産

新発田の土産は、お土産屋を経ける西屋(葉子屋)、元青屋旅館などのお名前が見えます。

4 新発田川とともに暮らし

初代藩主秀勝が、新発田城廻縄など下前の都市計画の際、新発田川が開削されました。戦略的な防御のための堀、貯質を運搬する水路、生活用水として、江戸から明治・大正時代にかけて新発田を支えるものでした。戦後生活様式の変化で役割は薄れていきましたが、現在も江戸時代の川筋は、ほとんど当時のまま残っています。川筋に沿って散策してみれば、新発田川とともにあった当時の暮らしの面影に出合うことができます。

⑪ 石泉莊

石泉莊(石崎家住宅)は、庭の中央に新発田川が流れており、昭和初期では伐採があったそうです。建物は明治時代の建造で、登録有形文化財に指定されています。庭を眺めながら抹茶やお弁当をいただくことができます。

■見学は要予約 ☎0254-22-3383

◆ 寺町裏～三ノ町・四ノ町界隈

石泉莊を出て清水園前を流れた新発田川は左へ曲がり、寺町裏、そして町人町であった通称三ノ町(日・桶町、越前町)、桶町通りや町木札(やまき札)、上定役町、築町通りへと流れています。残りや洗い場などが、新発田川が物資運搬路や生活用水であった頃の面影をとどめています。

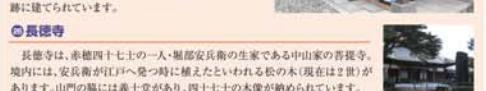


周辺の見どころ ⑫ 白蛇長屋周辺(四ノ町)

明治20年頃、白蛇氏が建てた第二・三階12軒長屋の軒が連なっている建物から平久保旅館までの一隅。古い建物や台輪格納庫、魚市場、溝の煙突や飯豊連峰が見られるおすすめのビュースポットです。さて、三ノ町とともに越後で最も日数が多い定期市・十二番市が立て駆けました。

⑬ 三ノ町・四ノ町界隈

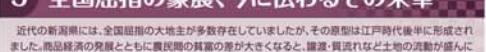
城下町新発田まで生き残った台輪が収められています。三ノ町の橋岸納屋(瓦真右衛門)は、どこよりもぐるぐるで、そこでもうが生き残す木造の台輪が軒下に提出され、まづり木が盛り上がりながら、柱が垂れています。



◆ 長谷寺

長谷寺は、赤堀四十七七の一人・堀部安兵衛の生家である中山家の菩提寺。境内には、安兵衛が江戸へ発つ時に植えたといわれる松の木(現在は2世)があります。

山門の脇には義士堂があり、四十七七の木像が納められています。

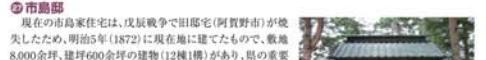


◆ 5 全国屈指の豪農、今に伝わるその栄華

近代の新潟県には、全国屈指の大地主が多数存在していましたが、その原因は江戸時代後半に形成されました。商品経済の発展とともに農民間の収益の差が大きくなると、譲渡・買取など土地の流通が盛んに行われました。商人・酒造業・村役人などから地主になるものが現れ、さらに広範囲に土地を集積して大地主に成長したのです。

その代表は市島家です。市島家は丹波国出身で、新発田藩第2代主溝口秀勝に従って五十公野町(新発田市)に移り住みました。のちに水原村(阿賀野市)に移り、農業種営を営んで大きく発展し、土地集積を進めました。地主として成長を続け、幕末に至り、元治2年(1869)に丹波に新潟へ移るまで最盛期地主となりました。その歴史は現在も市島家に受け継がれています。

大正13年(1924)農務省の調査によると、千町歩以上の巨大地主は北海道を除いて10家ありました。そのうち新潟県が5家を占め、うち3家は新発田地域の人(市島家、白勢家、彦藤家)でした。



◆ 市原代官所

慶応から17年後の平成7年(1995)8月25日、残された資料に基づいて復元されました。往時の様子を忠実に再現し、あしたか木タスリップをしてみるような驚きと感動があります。

■0250-63-1722

◆ ふるさと農業歴史資料館

市原代官所前に隣接するこの施設には、越後府代官所の模型のほか、農業と民具、貴重な資料が展示されています。また、阿賀野市の特産物を販売しています。 ■0250-63-1722

◆ 越後府衙

越後府は、明治政府の中心機関として明治2年(1869)2月から翌年3月まで、豪農市島家の別邸跡(通称:天朝山)に置かれていました。

現在は公園として整備され、越後府正門に通る建物の上に大きな鳥糞が再建されています。

◆ 水屋六畜舎(底の市)

越後府天朝山の裏手の手前、通称「底の市」で4と8のつく日に開催され、百数十軒の店が軒を連ねます。代官所が置かれた江戸時代には、新潟市、三条と並んで第三市場の一についに発展しました。青森、野菜、海藻、生き物、花火、木製品、骨董物、茶葉、豆類などあらゆるもの販売され、特に食料品では地元産の手づくり加工食品や新鮮な朝取り野菜や山菜など、内陸の露天市ならではの品々が並びます。

◆ 無為信寺

豪農聖人の高弟41人の1人、無為信を開創した浄土真宗大師の名刹。元は文永6年(1264~75)に、会津に創建されたと伝えられています。寛政12年(1800)、大主徳宗伊左衛門がこの地に再興。大正2年に本殿と客殿を新築しました。金剛頂塔をはじめとする国・県指定文化財を所蔵しています。

◆ 藤巣本陣(旧藤巣家)米蔵

本家の屋号で知られる田舎藤は、300年以上続く古い家柄で水原で米を貯蔵する米蔵。写真の米蔵は末一万俵收容能力で、草部屋の木造で、草部屋の土間で保管されました。現在は、木の技術の話を学めることができます。米蔵の白い壁がレトロなまごころが特徴。

